グループ討議の結果

Ａグループ

- 学校の先生が「こういう成績だと学校に行けないぞ」と子どもに言ったり、部活の先生が強い口調で言ったりして子どもが委縮していてしまうような場面では、権利が保障されていないのではないか。もちろん教育的なところで一生懸命やっているのは分かるのだが、時代は変わってきている。
- 子どもの権利を尊重しすぎることで、子どもがはき違えてしまうことが考えられる。
- こどもの権利を主張することにより本来あるべき姿ではないところに向かっていくのではないか。例えば、保育園に、早い時間から遅い時間まで預けられるようになったとすると、今度は預かる方の人達が早く出ないといけなくなる。そうなると預かる方にも家庭があるので、そこをどうすればいいのかという議論にもなる。
- 海外と日本の違いについては対話しながらお互いにわかりあうことが大切である。
- 子どもを一人の人間として見るということを大原則として押さえておきたい。

Ｂグループ発表

- 18 歳未満の子どもと大人が同じ権利で良いのかという話で、「こどもの権利条例」を作るのが大人であっても子どもの権利は成り立つのか、子どもの意見がしっかりその中に反映されるのか不安がある。
- 昔から道徳学的なことを教わってきたが、人権についてはあまり教わってこなかった。そのため、人権のことについて教わっていない人達が「こどもの権利条例」について考えてもうまくまとまっていくのかという心配がある。
- 子どもの人権から考えると、親の都合や親の考えで児童クラブに入っている子どもの中には、本心では児童クラブには行きたくないと思っている子どももいるのかもしれない。
- 家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくるには、今の子ども達が子育てに夢を持ったり、喜びを感じられるようにならなければいけない。そのためには、今の親世代が子ども達から身近なモデルとして見られていると意識しなければいけない。子ども達にはお父さんお母さんを見て、夢を持ち、素敵な家庭を持ちたいと感じてもらいたい。